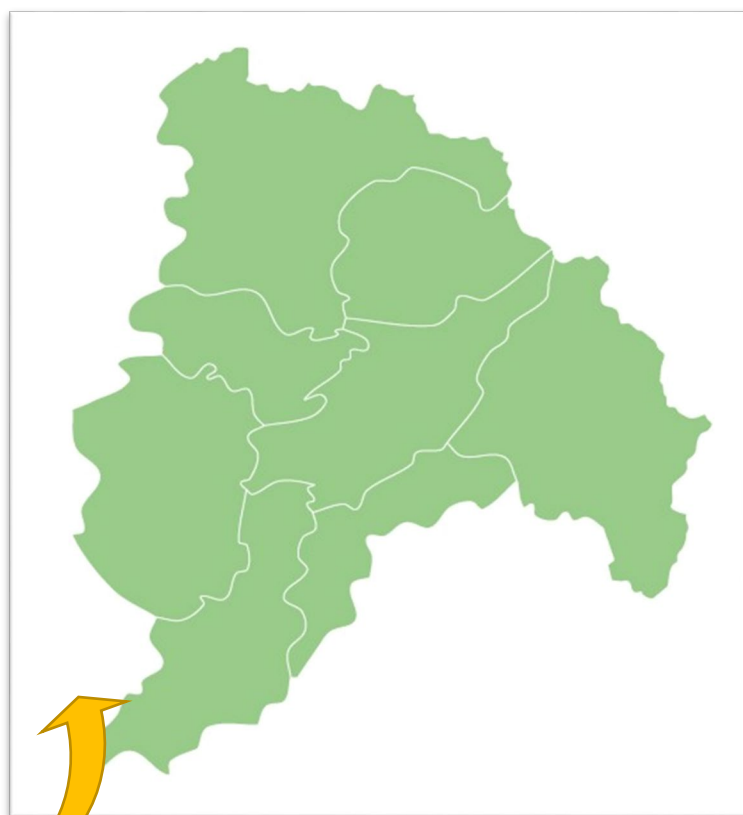


令和6年度  
基盤共通教育集中講義

# フィールドラーニング ー共生の森もがみ プログラム案内

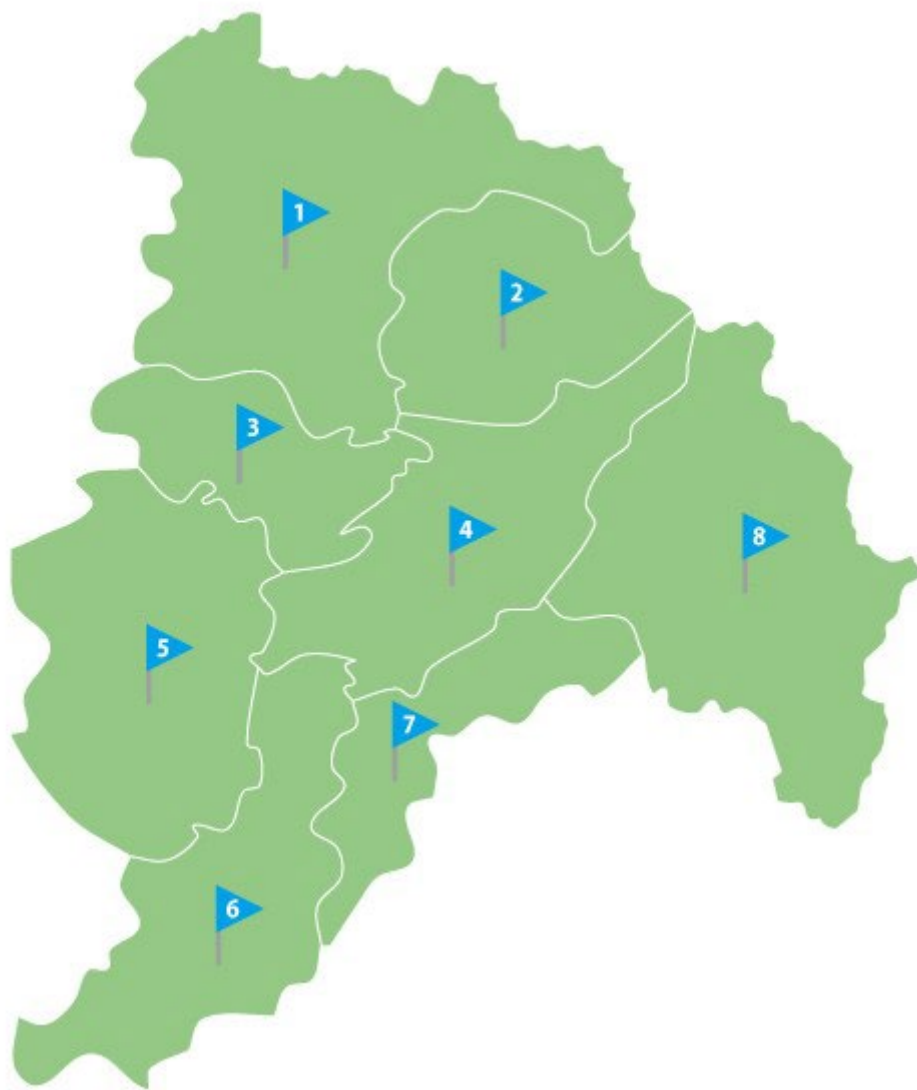


Q 最上広域圏8市町村の場所と名前を当ててみよう  
→答えは表紙の裏へ！

エリアキャンパスもがみマスコット ヤム君



最上広域圏の場所と名前みんな覚えてね！！



1. 真室川町
2. 金山町
3. 鮭川村
4. 新庄市
5. 戸沢村
6. 大蔵村
7. 舟形町
8. 最上町

## 目 次

◇授業計画（シラバス）	2
①新庄市	4
②金山町	6
③最上町	8
④舟形町	10
⑤真室川町	12
⑥大蔵村	14
⑦鮭川村	16
⑧戸沢村	18

# 授 業 計 画 ( シ ラ バ ス )

■授業科目名： 前期・・・フィールドラーニングー共生の森もがみ（山形から考える）  
 ■担当教員：阿部宇洋、橋爪孝夫、菊田尚人 ■担当教員の所属：学士課程基盤教育院、地域教育文化学部  
 ■開講学年：1年、2年、3年、4年 ■開講時期：前期 ■単位数：2単位 ■開講形態：講義  
 ～・・・授業概要～・・・

◎テーマ

自然豊かな山形県最上地域でのフィールドラーニングを通して、地域の文化や歴史、自然、環境等だけでなく、過疎化、少子高齢化等の現代日本が直面する諸問題を地域の人たちと共に学び、実践的な視点から知識を獲得し、山形から日本、世界及び過去から、現在、未来の空間及び時間軸で現象を把握する力を養う。

◎到達目標

- この講義を履修した学生は、
- 1) 地域から与えられた課題を発見できる。【知識・理解】
  - 2) 地域で発見した課題を探求することができる。【知識・理解】
  - 3) 課題を議論することで、コミュニケーションできる。【態度・習慣】
  - 4) プレゼンテーションを行うことができる。【技能】
  - 5) 行動力、社会性の基礎的な力を身につけることができる。【態度・習慣】

◎キーワード

山形、エリアキャンパスもがみ、地域社会、プレゼンテーションスキル、学生主体型授業

～・・・授業計画～・・・

◎授業の方法

この授業は、各自が以下のプログラム(①～⑧)から1つを選択して受講する。受講の流れは以下のとおり。

- 1) オリエンテーション
- 2) 事前学習 (WebClass)
- 3) 【1泊2日フィールドラーニング (1回目)】
- 4) 中間学習 (WebClass)
- 5) 【1泊2日フィールドラーニング (2回目)】
- 6) 最終レポート (WebClass)
- 7) 活動報告会に向けた説明会・練習、活動報告ポスター作成
- 8) 活動報告会での発表

**前期**

プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
①地域課題は宝? 「空き家」を通して暮らしを見つめ直すプログラム	新庄市	5月25・26日	6月22・23日
②山形くらし「なりわい体験」	金山町	6月22・23日	7月6・7日
③最上町の木を使った楽器を全世界に広めよう	最上町	5月18・19日	6月29・30日
④里地里山の再生I	舟形町	5月18・19日	5月25・26日
⑤子どもの自然体験支援講座	真室川町	6月1・2日	6月29・30日
⑥知られざる大蔵村の歴史と文化、郷土の食を求めて	大蔵村	5月25・26日	6月1・2日
⑦鮭川歌舞伎 地域の伝統文化の未来について考える	鮭川村	5月25・26日	6月8・9日
⑧戸沢村角川地域の新たな特産物開発プログラム	戸沢村	6月8・9日	6月15・16日

～・・・授業計画～・・・

① 説明会 (各プログラムの紹介・プログラム選択希望調査)

4月4日 (木) ～4月9日 (火) 23:59      WebClass で実施します

※4月9日 (月) 16:30～ 122教室にて説明会を行います。興味のある方は参加してみてください。

② 抽選

4月10日 (水) 13:00      掲示板・WebClass で発表します

③ 履修登録

4月10日 (水) ～4月11日 (木) 17:00      学務情報システムで各自履修登録

④ オリエンテーション（班顔合わせ、役割決め、フィールドラーニングの心構えについて）

4月19日（金）16:30～18:00

基盤2号館 222教室

---

⑤ プログラム毎にフィールドラーニング

5月11日（土）～7月7日（日）

---

⑥ 活動報告会

7月26日（金）16:30～18:00

基盤2号館 222教室

### 学習の方法

◎受講のあり方

- 1) 安全第一を心がけ、積極的に活動に参加してください。
- 2) 専門分野の方法論や数値的なデータだけではなく、フィールドラーニング（あるく・みる・きく）で集めたデータをもとに考えるよう心がけてください。「現場で考える」「体で考える」（もちろん頭も使います）ことが合言葉！そして、自分の想像力を大事にしてください。
  - ・学部の行事や、サークル活動（大会）と予定がバッティングしないように気をつけてください。必ず確認すること。
  - ・メールでのお知らせや掲示板での情報がありますので、必ず確認してください。

◎授業時間外学習へのアドバイス

- (1) オリエンテーションで配布される「しおり」を熟読し、内容を理解して授業に臨んでください。
- (2) オリエンテーションでの詳細説明に基づき①事前学習、②中間学習、③最終レポートに取り組んでください。  
また、フィールドラーニング中はこまめに記録ノートを作成するよう努めてください。
- (3) フィールドラーニング終了後、活動報告会に向けて準備を進めてください。方法については説明会を開催し、発表指導を2回行います。

### 成績の評価

◎基準

- (1) 地域での活動により課題を発見し、探求により深め、活動報告会の発表により他者に伝える事ができたかどうかを評価の基準とします。
- (2) 一連のグループ学習の中でコミュニケーション能力や主体的学習力、社会性などを発揮できる事を評価の基準とします。
- (3) 現地講師による活動評価、受講態度や、指示に対する達成度を数値化しそれを参考に教員が相対的に評価を実施します。

◎方法

前提として、現地活動にはすべて参加していること、また最終レポート提出が基本条件。

- フィールドラーニング活動への参加度40%
- 活動報告会での発表の完成度（ポスター含む）30%
- 現地講師による活動評価20%
- 受講生による相互評価10%

### テキスト・参考書

参考書：オリエンテーションで配布する「しおり」を参照するほか、活動中に地域で配布される資料を活用する。

### その他

◎学生のみなさんへのメッセージ

フィールドラーニングとは、山形大学オリジナルの学術用語で、学部専門で学ぶであろう、フィールドワークの入門編として設計されました。フィールドワークでは全て、みずからの関心で調査する事に対して、フィールドラーニングとは、提示されたプログラムを通して、課題発見などを行なう教育プログラムになっています。

最上地域は、学生諸君を温かく迎え入れてくれるでしょう。是非、もがみを見て、聞いて、感じて（味わって）、「共生の森」のパワーを体全体で吸収してきてください。

この講義をきっかけに、多くの学生が最上地域での課外活動に参加してきました。教員を目指す学生や、地域でのボランティア、地域活動を体験したい学生にはお勧めです。

本授業は宿泊や実技体験を伴いますので、参加費が必要となります。（詳細は、プログラム説明会の際に説明します。）

◎オフィス・アワー

原則として Webclass のメッセージで常時質問を受付けます。対面のオフィスアワーとして「阿部研究室」（基盤教育1号館2階東側）において、予約制で受け付けます。会議や出張等で不在にすることもあるため、確実に面談したい場合は事前に Webclass のメッセージで予約をお願いします。

3人の教員が担当していますが、基本的には阿部へ連絡をください。

## ●目的・概要

現代社会には、少子高齢化や過疎化等といった「社会課題」があります。しかし、それらは本当に「課題」なのでしょうか。課題とは、空き家や後継者不足といった「地域課題」の中にあると考えます。地域課題の積み重ねが、社会課題へ繋がる要因となっているからです。

今回の活動場所となるのは、新庄市万場町にある商店街です。万場町は、江戸時代から万（よろず）の商店が集まる場所と言われていました。しかし、人々の暮らしが変化し、現在は「空き家」という地域課題を抱えています。皆さんには、万場町商店街の街並みに触れてもらいながら、空き家という地域課題の原因、そして活用の可能性を考えてもらいます。また、この学習を通して、自分たちの「暮らし」に対して今一度考え、見つめ直す機会として本プログラムを開催します。

## &lt;訪問1回目 令和6年5月25日・26日&gt;

## ◎活動内容

## 1日目

## 【午前】

- ・オリエンテーション

## 【午後】

- ・万場町商店街散策

## 2日目

## 【午前】

- ・空き家勉強会

## 【午後】

- ・空き家見学
- ・まとめ

※2回目の訪問時までに、地域の方々へ発表する資料（課題についてや解決策）を考えていただきます。

## &lt;訪問2回目 令和6年6月22日・23日&gt;

## ◎活動内容

## 1日目

## 【午前】

- ・個人ごと課題や解決策等について、  
（一社）最上のくらし舎の方へ発表

## 【午後】

- ・地域の方々へ発表
- ・発表資料の修正

## 2日目

## 【午前・午後】

- ・山形大学発表へ向けて学習
- ・活動についての振り返り



●講師

- ・(一社) 最上のくらし舎 吉野 優美 氏
  - ・(一社) 最上のくらし舎 加藤 優一 氏
- 加えて当日は地域の方々にも協力を依頼します。

●受講定員 (最小開講人数)

6人 (3人)

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料 1,030円+シーツ代 220円  
+交通費 2,340円 (往復) +  $\alpha$  (食事代)

訪問2回目 宿泊料 1,030円+シーツ代 220円  
+交通費 2,340円 (往復) +  $\alpha$  (食事代)

合計 7,180円+ $\alpha$

## 昨年度新庄市プログラム受講生の感想

自分の思い描く充実した豊かな暮らし、最上の暮らしを実現できる場所が万場町にはあり、一人一人が最上の暮らしを実現することで地域の暮らしが豊かになるという話がこのフィールドワークで最も私の心に残ったことだった。商店街の散策を始めると各個人商店の店主の方々温かく私たちを迎え、ご丁寧に商店の運営や店としてPRしたいポイントについて教えてくださった。どの店舗も個性が光っており、温かく魅力的な商店街だった。(Aさん)

初めて私が万場町商店街を訪れたとき、本当にここが商店街かと思った。というのも、万場町商店街が私の思っていた商店街と異なっていたからだ。商店街というと、アーケードの下で店が営業していて、人通りが多くにぎわっているという姿を想像するのは私だけではないはずだ。しかし、万場町商店街はそうではなく、多くの空き家や空き地が存在し、営業している店が少ないといった状態だった。

このような商店街に魅力なんてあるのかなという気持ちで私は万場町商店街のお店を訪問した。お店を訪れてみて私が思ったことは「お店の人はみんな温かく、それぞれが自分の好きなことを追求しながら営業している」ということである。私はこれこそがこの万場町商店街の魅力ではないのかと思った。(Mさん)

店街の散策やのくらしの方々とのかわり、商店街の人々との交流を通じ、商店街の持つ個性や温かさを肌で感じる事ができて、とても有意義で楽しい活動になったと思います。プレゼン活動を通じて、さらに多くの方に万場町商店街の魅力を伝え、実際に訪れてみたいという方や、のくらしの活動を応援したいと思っていただける方を増やしていけるように尽力していきます。(Kさん)



地域を取り巻く様々な課題に向き合い、思考するきっかけづくりになるようにと本プログラムを考案しました。見えていなかった課題や問題を見つけ、現地の方々と解決の糸口を一緒に探していきましょう。

●目的・概要

少子化、高齢化が進む金山町において、若者の「就職先」というものは、今後この地に住む者にとっては大きな課題でもあり地域の魅力となりえる突破口でもあると感じます。働き先、働き方は多種多様です。都市では企業に就職するという選択肢がありますが、田舎では選べない現状もあります。

金山で働き、生活するという事は、どのようなことか。はたまた、新たな「なりわい」を興す方もいらっしゃるれば、これまで培われてきた「なりわい」を継ぐ（継業）という選択をされた方もいらっしゃると思います。

「田舎で働く」をキーワードに、地方の可能性について考えるプログラムを目指します。

事前学習で金山町の地域の文化や歴史、自然、環境などのポテンシャルを事前に調べてきていただき、金山だからできる仕事、金山でしかできない仕事などについて深掘りしていきましょう！

まさか、数年後にはあなたが金山町で新たな「なりわい」に就いているかも！？

<訪問1回目 令和6年6月22日・23日>

◎活動内容

1日目

- 09:50 新庄到着
- 10:30 金山町到着
  - 街並み案内
  - 町が抱える課題共有
- 12:00 昼食・休憩
- 13:30 株式会社ここから
  - 取り組み説明
  - 意見交換
- 16:00 ホテル移動
  - 宿泊

2日目

- 08:40 ホテル出発
- 09:00 明安食学校
  - 取り組みレクチャー(大豆関連)
  - お仕事体験
- 12:00 昼食(大豆ミート)
- 13:00 移動⇒中央公民館へ
- 13:30 振り返り
  - 時間に余裕があれば町内周遊
- 15:20 金山町出発
- 16:00 新庄駅解散

<訪問2回目 令和6年7月6日・7日>

◎活動内容

1日目

- 09:50 新庄到着
- 10:30 神室トラウトファーム到着
  - イワナ養殖業の継業
  - お仕事体験
  - イワナ解体・料理ワークショップ
  - カムロファーム昼食
  - 休憩
  - ホテル
  - 振り返り・発表準備
  - ホテル近辺自由行動
- 15:00 中間発表
  - 教育委員会職員との意見交換
- 16:00 終了

2日目

- 08:40 ホテル出発
- 09:00 中央公民館
  - 発表準備
- 10:00 発表会・意見交換会
- 12:00 昼食
- 13:00 移動⇒中央公民館へ
- 13:30 振り返り
  - 時間に余裕があれば町内周遊
- 15:20 金山町出発
- 16:00 新庄駅解散



●講師

株式会社ここから  
株式会社食のカコーポレーション  
Trout & Activity 株式会社  
金山町教育委員会 など予定

●受講定員（最小開講人数）

4人（1人）

●費用の目安

※変更がある可能性があります。

訪問1回目 街並み案内ガイド料（昼食代込み）2,000円  
+宿泊料4,800円+2日目昼食代1,500円  
+交通費2,340円（往復）+α（朝食代、夕食代など）  
訪問2回目 昼食代（2日分）2,000円+宿泊料4,800円  
+交通費2,340円（往復）+α（朝食代、夕食代など）

合計 19,780円+α

## 昨年度金山町プログラム受講生の感想

金山町は学びのある街として観光するのにとても良いと思った。金山町には自然、歴史、文化を感じられる場所が多くある。今回のフィールドラーニングを通して金山町独自のまちづくり、自然と人間の共生、金山町の歴史など、学びを得られる経験がたくさんあった。エコツーリズムの観点から、金山町固有の良さを発信できるような旅のプランを考えていこうと思う。（Mさん）

このフィールドラーニングを通して、得られたことは大きく二つあります。それは金山町の魅力をたくさん知ることができたことと、体験や人との交流を通して自分を成長させることができたということです。金山町の魅力については、豊かな自然や歴史を大切にしていることが挙げられます。また、人とのつながりを感じられる暖かいまちです。一回行くともう一回行ってみたいくなるような深い魅力があります。自分の成長と言う点については、ゴールを見据えた綿密な計画と事前準備の大切さを知ることができました。また、今まで関わったことのない班のメンバー、金山町の方、マルシェで出会った方などとの交流を通して良い刺激をもらえたと思います。（Hさん）

実際に金山町に訪れ、自然を耳や目、鼻などで感じられる貴重な時間であった。遊学の森での活動は山菜収穫からの調理、ビオトープ観察での自然観察を行い日常生活では味わえない風景を目にすることができた。マルシェでは、地域住民の方だけでなく様々な人と関われるきっかけづくりの場になった。（Sさん）



新しいプログラムとなります。一緒に考えてともに地方の可能性を考えましょう！



## ●目的・概要

○最上町で活動する団体「ベルフォレ」は、最上町の木材を活用した楽器を制作し、演奏活動を行う団体です。毎年、木と音の会代表泉谷氏を講師に迎え、町内のイベントなどで共に行っています。今後の活動テーマとしては、

- ① 「森から生まれた楽器」を町の子供と大人が楽しむ場所をつくる。
- ② その楽しみ方を発信して、町外、国外で同じように楽しむ人を増やす。
- ③ 最上町を拠点として、町外、国外との交流を促進する。

この3つを軸に進めていきたいと考えています。そこで学生には、実際に楽器に触れ、演奏を楽しんでいただきながら、それぞれが感じたことや、本活動の新たな可能性、楽器の楽しみ方や楽しむ場所づくりなどを最上町に提案して頂きたいと考えています。フィールドラーニングでは、自然体験や農業体験の講座が多い中で、本講座は最上の木材を活用した楽器の体験ができます。

## &lt;訪問1回目 令和6年5月18日・19日&gt;

## ◎活動内容

- プログラム説明（担当者、講師から）
- 楽器演奏
- 楽器作成
- ワークショップ
- ※詳しい時間はプログラム詳細の際に提示

## &lt;訪問2回目 令和6年6月29日・30日&gt;

## ◎活動内容

- 楽器演奏
- 楽器作成
- ワークショップ
- ※詳しい時間はプログラム詳細の際に提示

## ●講師

木と音の会 代表 泉谷 貴彦 氏

## ●受講定員（最小開講人数）

8人（6人）

## ●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料 6,350円 + 実習経費 2,000円  
+ 交通費 2,340円（往復）

訪問2回目 宿泊料 6,350円 + 実習経費 2,000円  
+ 交通費 2,340円（往復）

合計 21,380円



## 昨年度最上町プログラム受講生の感想

最上町の木が使われた創作楽器のハーブや一音笛を演奏しながら創作音楽をつくる活動は、私に創作音楽の楽しさや魅力を感じさせてくれた。まず、正解が無く、間違いも無いという自由さが創作音楽の大きな魅力である。間違った時に感じる焦りや罪悪感が無いことで、伸び伸びと演奏を楽しむことができる。また、創作楽器の手作り感は、泉谷さんが言っていたように期待値が上がらないため、緊張感を持ちすぎずに演奏ができる。活動していくうちに仲間との仲が深まることで、音楽がより良くなっているのを感じられたのは楽しかった。創作音楽を通して、絆が生まれたのも良かった。(Bさん)



今回のフィールドラーニングで最上町を訪れて学んだことがある。それは「音楽を作ることの楽しさ」だ。活動に参加する前は、楽器を使った演奏と聞いてイメージするのは、決められた音を再現できるように練習を重ね、その中で自分を表現できるかということだった。しかし、今回の活動を通じて、音楽の形態はそれだけじゃないということに気づかされた。楽しむ中で生まれていく音楽もあるのだ。(Hさん)

私は活動を通して創作楽器がどんな人の心にも楽しさをもたらす最上の新たな文化となり得るものであると考える。先生は活動の始めに「去年の生徒たちは今までの我々にはなかった新たな視点を与えてくれました。今回の活動でも新たな刺激となるような新しい世界を期待しています。」とおっしゃられ正直何をすればいいかよく分からなかったが活動していく中で先生のおっしゃる新しい世界というものを理解し形にできたと言える結果が得られた。始めた当初はこれを形にするのはかなり難しいのではないかと思え班全員が力を出し切り協力する必要があると思えた。しかし、取り組んでいくうちに頑張らずに取り組むのではなく全員が自ら率先して楽しむために音楽を作りあげようと行動していて、私を含め音楽経験が0のメンバーもいた中でたったの4日で一から音楽を作り出し最終的に地域の人々の前で披露するまで至ることができた。この創作楽器の簡明さと観客を感動させられたその普遍性には目を見張るものがありこれこそが最上町を世界に知ってもらおう端緒となり得ると考えた。(Tさん)



楽器演奏をした事のない方でも簡単に演奏を楽しむことができます。

## ●目的・概要

農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得すること目的とする。

荒廃した農地等の再生を共に活動することによって、受講者自らが考案する農村の再生策を提言としてまとめることを目標とする。

○地域学講座（堀内地域の将来ビジョン）

○食と農の体験活動



## ●講師

堀内ファーム 大山 邦博、伊藤 千代喜

## ●受講定員（最小開講人数）

10人（5人）

## ●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料・食事代 6,000円程度  
+交通費 1,980円（往復）

訪問2回目 宿泊料・食事代 6,000円程度  
+交通費 1,980円（往復）

**合計 15,960円**

<訪問1回目 令和6年5月18日・19日>

◎活動内容

野菜の播種、定植活動

<訪問2回目 令和6年5月25日・26日>

◎活動内容

野菜の播種、定植活動

## 昨年度舟形町プログラム受講生の感想

舟形での農業体験を通して改めて農業の大変さや楽しさを知ることができた。具体的には、支柱立て、ネット張り、なす、きゅうり、じゃがいもの定植などの多くの作業を体験させて頂いた。これらは正直骨の折れる地道で大変な作業だったが、終わった時の達成感はとても大きかったし、その後のご飯もいつもの何倍も美味しく感じられた。舟形産のお米や山形の郷土料理である芋煮、肉蕎麦など、地域に根付いた食べ物を楽しむことができて良かった。(Hさん)



この活動を通して私は農業の大変さを痛感した。農業はただ作物を植えるだけでなく植える前に支柱を立てたり周りにメッシュ状のシートを張ったりほかにも様々な作業を経てやっと作物を植えることができる。また終わりが見えない中これを少人数でやらなくてはいけない、そしてきゅうりを700本植えても収入は約100万円程度と労働と報酬が割に合わないなど農業の課題と現状を知ることができ若者が農業から離れていく理由がすこしだけ分かった。(Nさん)

過疎化や少子高齢化が進んではいましたが、今回のフィールドワークで舟形町の良さがとても伝わりました。自然も豊かで、若鮎温泉もとても居心地がよく、一度来た人ならまた行きたくなるような場所だと思いました。なので、西又かぶのブランド化や、その他イベントなどを通して一度舟形町に足を運んでいただきたいです。(Uさん)

今回実際に農作業を体験して大変さを感じ、農村が抱える課題を体感することができた。農学部である自分にとって貴重な体験ができたと思う。まだ自分には知識が浅いため解決に導くのは難しいと思うが最善を尽くしていきたいと考えている。(Aさん)

1回目の活動1日目ではナスの定植とネット張りを行いました。定植の際には茎が折れないように、バカ棒と呼ばれる棒を根を傷つけないよう茎に添わせて刺しました。ネットを張るだけでなく野菜1株ごとに棒を刺すのは労力がかかることだと思います。2日目は次植える野菜のための準備で鉄パイプのドームのようなものを立てました。13人で活動したにもかかわらず半日で畑1面分程しか作業が終わりませんでした。この仕事をさらに少ない人数で行っている農家の方々の大変さがよくわかりました。(Kさん)



農業体験を通して、将来、社会で役立つスキルを身に付けることができます。  
参加者には、団体が生産したお米(はえぬき)をプレゼントします。

## ●目的

子どもの自然体験活動の支援に携わり、体験活動を通じた子どもの変容に気付くことで、自然体験活動の意義を感じたり、よりよい支援のあり方を考えたりする。

## ●概要

## &lt;1回目&gt;

1日目：①FLによる「めんごキャンプ」プログラム体験と、支援のあり方のシミュレーション

②現代の子どもの課題と、自然体験活動の意義を学ぶ研修

2日目：幼児・低学年対象「めんごキャンプ」のスタッフとして子どもの体験活動の支援を行い、ふり返り、よりよい支援のあり方を考える。

## &lt;2回目&gt;

1回目の経験をもとに、小3・4年対象「わんぱく探検隊」（1泊2日）のスタッフとして、子どもの体験活動の支援を行う。

講座全体を通して、子どもへの支援を通して得た気付きをもとに、自然体験活動の意義やよりよい支援のあり方についての考えをまとめる。

## &lt;訪問1回目 令和6年6月1日・2日&gt;

## ◎活動内容

## 1日目

・オリエンテーション、ワークショップ

- ① 真室川町の紹介
- ② 自然体験実習
- ③ ワークショップ

「自然体験・学び・支援」

## 2日目

企画事業「めんごキャンプ」活動支援

- ・幼児～小学2年生対象
- ・班付きスタッフ、バックアップスタッフ
- ・野遊び
- ・トレッキング など

## &lt;訪問2回目 令和6年6月29日・30日&gt;

## ◎活動内容

企画事業「わんぱく探検隊」1泊2日活動支援

- ・小学3・4年生対象
- ・班付きスタッフ、バックアップスタッフ
- ・野遊び
- ・野外炊飯
- ・テント泊
- ・トレッキング など
- ・フィールドラーニングのふりかえりと共有

## ●講師

山形県神室少年自然の家職員

## ●受講定員（最小開講人数） 15人（5人）

## ●費用の目安 ※変更となる可能性があります。

8,000円（全日程分※）+交通費2,340円（往復）×2回

※飲食料費、保険代、活動費、宿泊費

**合計 12,680円**



## 昨年度真室川町プログラム受講生の感想-----

神室少年自然の家では、「ChanceにChallengeしChangeする」という「3つのC」がかかげられており、参加していた子供たちとめったに体験することのできない大自然での活動で、半日や1日という短い時間の中でもたくさんのことを感じ、学ぶことができました。子供たちとの関わり方やサポートの仕方を自分自身が学ぶのと同時に、子どもたちが自分たちで協力して活動を進められるようになっていき、ともに成長することができたこと、そして好奇心で目を輝かせていた子供たちの笑顔をたくさん見ることができ、とても幸せで学びの多い活動となりました。(Mさん)

昔と比べて自然に触れたり、外で遊んだりする機会が少なくなってきた今、神室少年自然の家が実施しているようなプログラムは子供たちの成長や経験値にとって大切なものだと考えた。神室少年自然の家では他にも豪雪地帯であることを生かしたプログラムなどがあり、雪国の文化を学んだり、雪上でキャンプをしたりなど様々なことを体験できる。このような体験は子供たちにとって大切であり、神室少年自然の家が実施しているプログラムをもっと多くの地域に広めていくべきだと感じた。(Sさん)

このフィールドラーニング2回の活動を通して、楽しさも勿論あったがそれ以上に子供の関わり方など沢山の学びを得ることが出来た。感じること・考えていることは、個人差があるということを確認することができ、それぞれの子にどう対応しないといけないかを考えるきっかけになった。また、子供自身も成長することができたのと同時に私自身も成長することができた。(Sさん)

今回の神室少年自然の家での活動では子供たちの成長を見届けながら我々も貴重な成長を得られたと感じている。子供との関わり方のノウハウを教えていただき、子供たちに対しての褒め方ややるべきことに誘導する方法など子供たちに自主的に動いてもらうための学びを得ることが出来た。ボランティア活動に対する関心も高まり、非常に有意義な活動であったと感じた。(Kさん)

この自然体験活動を通して、子どもたちとのコミュニケーションやリーダーシップの重要性を再認識しました。彼らは純粋で好奇心旺盛であり、私たち大人にとっても貴重な存在です。彼らから学ぶことは多くあり、彼らと過ごす時間は私の成長にも繋がりました。少年自然の家での活動は、子どもたちとの絆を深め、自然とのつながりを感じる素晴らしい機会でした。その経験を通じて、共感力や教育的な視点の重要性を学び、人間関係や社会貢献の意義を改めて実感しました。(Nさん)



真室川町の講座は、真室川町教育委員会と山形県神室少年自然の家が連携して行います。自然の家が主体となって運営し、真室川町教育委員会はバスでの送迎などのサポートを行います。

講座の内容は、子どもの自然体験活動支援について考えるというものです。学生の皆さんには、子どもたちが自然の中で体験活動を行う様子を見守ったり、子どもたちの体験活動を支援したりしていただきます。そのことを通して、現代の子どもを取り巻く課題や、子どもが自然体験活動を行う意義、よりよい支援の仕方等について考えるきっかけになることを目指しています。

自然体験活動をするための環境が整った真室川町、そこにある神室少年自然の家でいきいきと学ぶ子どもの姿や、自然体験活動を通して変容していく子どもの姿を実際に目の前で見て、感じていただけたらうれしく思います。

## ●目的・概要

大蔵村の人々は、歴史・文化・産業といった地域の伝統を共有することによって、共同体としての意識・誇りをもって暮らしてきました。近年は、少子高齢化とともに、世間の多様化の波が大蔵村にも押し寄せています。働き方・生活様式・人との関わり方などが変化し、伝統を受け継ぎ大蔵村を元気ある村として維持していくため、地域の人々は様々な取り組みを行っています。村の取り組みの工夫と苦悩、課題について体験を通して学び、考えることがこのプログラムの目的です。

温泉・食・工芸・農業・芸能を肌で感じ、実際に体験し、楽しみ、大蔵村を全身で学べるプログラムとなっております。

具体的には、以下の取り組みを中心に学び考えます。

○四ヶ村の棚田 ○食文化の保存活動「笹巻作り」

○若者グループの産業・地域活性化活動「トマト」 ○大蔵村の6次産業「大蔵わさび」

○伝統芸能「合海田植え踊り」保存活動 ○肘折温泉の歴史と文化の継承

○肘折温泉「現代版湯治スタイル」

## &lt;訪問1回目 令和6年5月25日・26日&gt;

## ◎活動内容

肘折温泉の伝統と歴史を学ぶ

- ・散策：肘折温泉街
- ・見学：「肘折こけし」制作
- ・体験：こけしストラップ作り

四ヶ村の棚田保存活動

- ・体験：田植え
- ・講義：四ヶ村棚田保存活動

合海田植え踊りの保存活動

- ・体験：伝統芸能「合海田植え踊り」

肘折温泉の湯治を体験

- ・体験：肘折の湯治 「温泉入浴」

## &lt;訪問2回目 令和6年6月1日・2日&gt;

## ◎活動内容

若者グループの産業・地域活性化

- ・対談：大蔵村若者グループ「メンズ農業」
- ・体験：大蔵トマトハウス栽培

大蔵村の6次産業について

- ・体験：大蔵わさび加工体験

食文化の保存活動

- ・体験：笹巻作り

合海田植え踊りの保存活動

- ・見学：伝統芸能「合海田植え踊り」

●講師 地域住民の方々

●受講定員（最小開講人数） 10人（5人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料・食事代・温泉入浴料 10,000円+交通費 1,980円（往復）

訪問2回目 宿泊料・食事代・温泉入浴料 6,000円+交通費 1,980円（往復）

**合計 19,960円**



## 昨年度大蔵村プログラム受講生の感想-----

実際に大蔵村を訪れたことで、大蔵村の村民の郷土愛の強さが分かった。トマト農家の方も、合海田植え踊りに参加していた方も、大蔵村で話を伺った方々全員が大蔵村を愛し、これからも住み続けたいと笑顔で話していた。一度大蔵村を出たが、大蔵村の良さに気がつき戻ってきたという方もいた。大蔵村のどこが好きなどではなく、全てが好きで、帰ってくる場所は大蔵村だけだと話す方もいた。郷土愛についての実際のアンケート結果などが存在しないため、数値として証明することは難しいが、私は実際に村に行き、村民の大蔵村への愛を強く感じた。(Iさん)

本やインターネット上では感じるできないたくさんの魅力に気づくことができた。

中でも私が最も惹かれたのは、大自然の中で生活することでもたらされる安らぎや心地よさである。4月から大学の講義やら部活やらで多忙な日々を送っていた私にとって、今回の4日間は自分をリセットする良い機会になったと感じる。豊かな森林を登り進めていくこと、村の方々とお話すること、広大な土地となった城跡に当時の様子を思い浮かべること、多様な生物の生きる広い棚田に足を浸かること。大蔵村と触れ合ったすべての体験が私の心を静め、穏やかにしてくれたと感じている。普段の生活とは少しかけ離れたのどかな村での生活は、私たちの脳を新鮮にし、クリエイティブに考える力を恵んでくれた。たった数日間ではあったが、この貴重な体験を忘れることはない。(Mさん)

今回の活動に関わった大蔵村の方々が温かく迎えてくださったおかげでとても充実した活動になったといっても過言ではありません。印象的だったのは田植え体験のとき自分も含め参加していた人全員が楽しく田植えをしていたことです。うまく田植えができると褒めてくれたり、大蔵村のことや田植えのことなど色々話しをしたりしてくれたのでとてもうれしかったです。(Tさん)



大蔵村は全国屈指の豪雪地帯、かつ県内で最も人口が少ない村でありながら、村民の皆さんの元気・笑顔は県内随一と思っております。是非、元気な人々と伝統文化、数々の特産品を育てている大蔵村の空気と自然、人の暖かさに触れて下さい。このプログラムでは、地元で採れた山菜や米、蕎麦をふんだんに使った料理を味わうことが出来ます。夜は秘湯肘折温泉を存分に満喫して頂き、普段の生活では経緯できない人里離れたノスタルジックな雰囲気味わっていただきたいと思っております。



●目的・概要

『鮭川歌舞伎』はかつて4つの地区に伝えられ、祭りなどで披露することにより継承されていましたが、時代の流れとともに各地区での活動は衰退してしまいました。

「わが村の伝統芝居をなんとかしても続けていきたい」この思いから昭和46年に「鮭川歌舞伎保存会」が結成され、現在に至るまで伝承活動に取り組んでいます。

このプログラムでは、定期公演の準備や運営等の体験をとおして、鮭川歌舞伎の今後の継承や保存・活用についてのアイデアを考えてもらいます。



●講師

鮭川歌舞伎保存会 会長 佐藤 成一 氏  
座長 高橋 真一 氏 ほか

●受講定員（最小開講人数）

5人（3人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

宿泊料（2回分） 18,100円＋昼食代 3,800円（4日分）

+交通費 4,680円（往復2回分）

+α（飲み物代等）

合計 26,580円+α（飲み物代等）

<訪問1回目 令和6年5月25日・26日>

◎活動内容

鮭川歌舞伎についての説明  
鮭川歌舞伎定期公演準備  
村内神社、文化財の見学 等

<訪問2回目 令和6年6月8日・9日>

◎活動内容

鮭川歌舞伎定期公演準備、運営、見学 等

## 昨年度鮭川村プログラム受講生の感想-----

この二回のフィールドワークを通して、自然や地元の方々との関係を再認識し、感謝の気持ちと共に自然の尊さや人の温かさを学ぶことができました。それらを通じて自然や地域社会により深くかかわり、守り、受け継ぐには、地域の方々そして私たちの協力が不可欠であり、理解と尊重が求められます。今後も地域に根付いた学びや体験を積極的に体験し、長期的な視点での社会貢献をしていきたいと思います。(Eさん)

過疎化や少子高齢化、環境保護など地域社会が抱える問題は多岐にわたるが、実際に地元の方と活動をする中で最も感じたことは地域の温かさだ。問題を解決するために行動することは重要だが、それよりも地元の方々が地元を心から愛し、温かい環境の中で交流が行われること、地元の方がそれを楽しみにしていることが何よりも大切なことなのではないかと感じた。地元を守りたいという強い志のもと様々な活動が行われ、それはボランティアから始まりさらに私たちのような外部の学生などを巻き込んだ活動に拡大していき、地元の方だけではなく県民そしてその地域を重要だと思う人々が行動していくことで改善される問題はたくさんあると感じた。今後も引き続きボランティアに参加することなどを通して私たちができることを模索していきたいと思った。(Mさん)

1回目のフィールドラーニングでは鮭川村には貴重な絶滅危惧種が生息していることや自然保護委員会の活動について教えていただき、保全活動の必要性について学びました。そして実際に里山の自然を観察しました。そこから中に絶滅植物が存在し、この環境を守らなければいけないと感じました。後に調べてみると、山形県内で生物多様性上重要な里地里山の選定地は鮭川村を含め22か所あり、山形には希少種が生息する場所が多数存在することが分かりました。(Kさん)

今回の活動を行う前、私はそんなに大変な労働をして残そうとする自然にそんなに価値があるのか疑問に思っていた。しかしこの活動を通して、自然を残すことは大変だが残す価値はあると感じた。まず外を歩いていると当たり前のように希少な虫や植物が生えていることに普段住んでいる山形市とはかなり違う雰囲気があった。さらに自然を守ろうとすることで鮭川村全体でまとまることができているのではと感じた。自然を守るという大きな目標に向かい村全体で協力しているのがフィールドワーク4日間だけでも感じる事ができた。もしこの保全活動がなければ、ここまでみんなが協力し、まとまることはないと思う。(Sさん)



古くから存在してきた芸能を継承していくことは、文化財としてだけではなく、地域の特性を残していくということにも繋がります。伝統文化に興味がある方は参加してみてもいいのではないでしょうか。

## ●目的・概要

当地域における持続的な収益を得る為にも、ぜひ若い学生に当地域を学んで頂いた上で当地域らしい新たな特産物を地域の方々の交流を通して創り提案して頂きたい。まずは当地域に何があり、現在はどんな物が特産としてあるのかを現地を実際に歩き知って頂く。次に地域住民と一緒に特産物のアイデアを出して頂き、プレゼンして頂く。2回目の訪問では新たな特産物発表の準備を行い最終日に実際に特産物を戸沢村の主要観光地に提供してお客様の生の声を聞き取りをして今後に繋げる。



## &lt;訪問1回目 令和6年6月8日・9日&gt;

## ◎活動内容

- ・オリエンテーリングとしてフットパスにて当地域を歩く
- ・ワラビ採り
- ・木エクラフト
- ・農家民宿に宿泊
- ・販売アイデア企画会議プレゼン
- ・地域の方と一緒に山菜ランチ作り
- ・次回の提供特産物を決定

## &lt;訪問2回目 令和6年6月15日・16日&gt;

## ◎活動内容

- ・蕎麦打ち体験
- ・翌日の特産物提供に必要な準備
- ・農家民宿に宿泊
- ・特産物の実地提供聞き取り調査
- ・昼は弁当
- ・聞き取り結果の集計・振り返り



## ●講師

NPO 法人田舎体験塾つのかわの里

事務局長 安食 輝敏、沼澤 吉己

寺台農園 代表 田中 悦夫

## ●受講定員（最小開講人数）

14人（10人）

## ●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料・活動費 11,000円

+交通費 2,340円（往復）

訪問2回目 宿泊料・活動費 11,000円

+交通費 2,340円（往復）

合計 26,680円

## 昨年度戸沢村プログラム受講生の感想-----

一回目のフィールドラーニングでは蕎麦打ち、山菜採り、山菜料理作り、林業体験を行った。これらの活動は、実際に戸沢村の生活と結びついた体験活動で新鮮味を感じるとともに、自然環境と生活が密接に結びついていることからの大変さを感じた。また、活動を通して得た学びとして林業の現状と課題、間伐の重要性、里山保全の持つ意味などが挙げられる。

次に二回目のフィールドラーニングでは、トレッキング、木エクラフト、SDGs ゲームなどの活動、また、担当の方からやまがた森のミクスという構想について説明を受けた。これらの活動を通して戸沢村の自然の豊かさを再確認すると共に、観光資源としての可能性を感じた。また、SDGs ゲームに関しては楽しく最上地域の特産品や農業の様子、生活風景を知ることができ、非常に完成度が高いと感じたので是非参考にしたい。(Kさん)

このフィールドラーニングでは山形県出身の私でも知らなかった戸沢村の良さを五感で感じる事ができ、また戸沢村に尋ねてみたいと感じる楽しい体験でした。同じように多くの人にも体験してもらい、自然と共生していくことのできる戸沢村を守っていかうとする人たちをもっと増やすために、戸沢村のお祭りなどのお手伝いをすることなどで、この先も積極的にかかわっていきたいと思います。(Oさん)

1回目の活動では主に、山菜採りと杉林の伐採をしました。山の中に入り、採りに行った山菜にはたくさんの種類があった。私は、あまり山菜について詳しく知らず、食べたこともあまりなかったことから、はじめは食べることを躊躇っていましたが、いざ食べてみるととても美味しく、それぞれに調理法の違い、味や食感の特徴があることや、現在ある料理の代用品としても使えることから、山菜の奥深さを知った。

次に、2回目の活動では主に、浄の滝登りや木エクラフト、SDGs ゲームをしました。浄の滝登りは険しい道の連続でとても大変でしたが、素晴らしい景色を見ることができ、大きな達成感を得ることができた。木エクラフトは、とてもよい自然の利用方法だと思った。(Aさん)

3日目は白糸の滝まで散策したことにより、SDGs と観光や暮らしの関係の問題を知りました。間伐やバイオマストイレの導入など、環境保全を意識していることや雪解け水による豊富な栄養素を持った水などにより、森の奥ではクロモジやトチの木などの珍しい植物などが育っていました。しかし、近年の異常気象により干ばつや洪水、土砂崩れが起ききれいな川には魚がおらず、砂防ダムの周辺一帯の木が枯れるなどの光景を見ました。温暖化の影響が見え隠れしていました。(Hさん)



戸沢村角川の地域の人と、ふれあい、交流しながら、角川の魅力を感じてほしいと思います。そして、山菜などを使った特産品の開発など、角川の魅力をたくさんの人に伝えるお手伝いをしていただけると嬉しいです。